

# 図書館だより12月号

令和3年12月20日  
万代高校図書館

もうすぐ2021年も終わりを迎えますね。皆さんはこの一年、長く感じましたか？それともあっという間でしたか？ 昨年に続き、様々な制約の中で過ごした時間でしたね。何か思い出話にできるよう、この冬を元気に越えましょう。

そんな中でもクリスマスはやってきますね。プレゼントをあげたり、もらったり…という人もいるでしょうか。なかなか上級者向けですが、大切な人に「本」を贈ってみるのはいかがでしょうか。できれば本屋さんに足を運んで、相手のことを思いながら、ウロウロぐるぐる悩んで選んだ時間も一緒に、その一冊を手渡してあげてください。きっと喜んでもらえますよ。皆さん、素敵なクリスマスを！ そして、良いお年をお迎えください。

図書館司書 楠

## 冬休み中の図書館は、蔵書点検のため閉館します

**12月27日～2022年1月5日**

### 図書館は閉館です。

この間、蔵書点検を行いますので使用はできません。読みたい本、借りたい本がある人は、冬休み前にぜひたくさん本を借りてください。

12月24日まで**10冊貸出し**しています。



## 千の扉あけて 第8章

本の表紙を開いて最初に現れる、タイトルの書かれたページのことを「扉(とびら)」と呼びます。本を開くことは、いろんな世界、いろんな物語、いろんな知識へとつながる扉を開くこと。これから皆さんを、無数にある扉のひとつへご案内します。それをあけるかどうかは、あなた次第。ですが一冊の本の世界を旅した時、きっとそれ以前とは変わっている自分に気づくでしょう。今回の「扉」は…

### 『世界はうつくしいと』

長田 弘 著

911  
オ

雪がちらつき始め、寒さで目覚める朝も度々のこの頃です。冬休み、年末年始、あたたかい部屋で本を片手に過ごすなら、どんな本が良いでしょう。私なら、詩集をおすすめします。



「うつくしいものの話をしよう。/いつからだろう。ふと気がつくと、/うつくしいということばを、ためらわず/口にすることを、誰もしなくなった。/そうしてわたしたちの会話は貧しくなった。/うつくしいものをうつくしいと言おう。」と始まる一篇の詩は、この続きに、たくさんのうつくしいものの名が挙げられていきます。あなたなら、どんな言葉をつなげますか。「うつくしい」と思えるものを、たくさん見つけられる人でいたいですね。

『世界は一冊の本』などの著書で知られる詩人の長田弘さん。2015年に亡くなられましたが、遺した471篇の詩と言葉は、いつまでも読む人を癒し、勇気づけ続けるでしょう。私たちも、良い本と良い言葉に触れ、人の心をあたためる言葉をたくさん持ちたいものです。

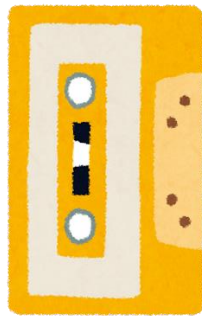
それではまた、次の扉でお会いしましょう！



## SFの楽しみ

魅力的な物語は数々ありますが、日常を遠く離れた世界を描いたお話は特にワクワク、ドキドキさせてくれますね。「SF」＝サイエンス・フィクションと呼ばれるジャンルは、宇宙を舞台にしたものや、人類が未だ到達できていない科学技術が実現している設定で、私たちが見たことのない世界を描いているのが特徴です。数ある名作の中、なかなか選びきれませんが、ごく一部を紹介します。

### 『わたしを離さないで』 カズオイシグロ 著 933 イ 早川書房



あまりにも有名なタイトル。初めて読んだときの衝撃は、忘れられません。ヘルシャムという施設で生まれ育つ子どもたち。毎週の健康診断、図画工作の授業、教師たちの奇妙な態度…。読み進むごとに、知りたいけれど知るのが怖い真実がじわりじわりと明らかになっていく過程が、読者を釘付けにしてくれます。ボンヤリとしか書けないのがもどかしいのですが、読んでください。

### 『華氏451度 新訳版』 レイ・ブラッドベリ 著 933 フ 早川書房



舞台は「本を読むこと」「本を所持すること」が禁止された未来社会。本を隠していることが知られると「昇火士(ファイアマン)」たちが駆けつけ、全て炎で焼き尽くしてしまいます。

主人公モンターグは、職務に忠実な昇火士の一人。そんな彼が風変わりな少女と出会い、自分のしていることに少しずつ疑問を抱き始めます。「読書」が人間に何をもたらすのかを描き出す名著。本が読める世界で良かった！と思えます。

### 『アイの物語』 山本 弘 著 913 ヤ KADOKAWA



人類が衰退し、機械が支配する未来の世界。主人公の僕は食糧を盗んで逃げる途中、アイビスと名乗る女性型アンドロイドに捕えられます。ケガをした僕に、アイビスはロボットや人工知能にまつわる物語を毎日読み聞かせます。その真意とは？人類の知らない、機械と人間たちの真実とは？バラバラの物語が、一つの意味を形づくるラストは圧巻です。

「物語の力」を信じる人に読んで欲しい一冊です。

### 『散歩する侵略者』 前川 知大 著 913 マ KADOKAWA



舞台上で上演された作品を小説化。後に映画にもなりました。

鳴海の夫、真治が数日間の行方不明の後、まるで別人格になって帰ってきます。同じ頃、町では一家惨殺事件が発生、他にも奇妙な現象が…。

地球人に乗り移り、出会った人から頭の中の「概念」を奪う宇宙人…という設定が秀逸。怖くて不気味な物語なのに、読後感が驚くほど爽やかで感動的なのが不思議です。